



Social Blindness(vol.2)

頒布予価:800円 / A5版88頁

“社会が見えないという困難から、 「いまここで起きていること」を問う 先鋭のアンソロジー第2弾”

文化とは何か、コミュニケーションとは何か。社会が見えないという困難から、「いまここで起きていること」を問う。社会学者、精神科医、ゲームクリエイター、アスペルガー者など多彩な執筆陣によるアンソロジーの第2弾。社会学や臨床精神医学、哲学などハイブリッドな視点から、複雑化し加速する現代社会に生きる我々の“生きにくさ”を解き明かす。「いまここ」でしか読めない思考的実践の書！



複 雑化していく社会のなかで、社会の変化の速度はますます加速しているように見えます。このような状況のなかで、私たちは他者とうまくやってわかり合えばよいのでしょうか。世間の様子を見ると、いつも新刊書店の店先には人前でうまく話すための本や、ビジネスチャンスをもつためのコミュニケーション術といった本があふれています。しかし、そうしたあまりに実用的な語り口のなかでは「コミュニケーションとは何か」という本質的な問いは素通りされてしまい、その作法やコツだけが書かれているものばかりが多いことは、今も昔もかわりません。そもそも、社会においてコミュニケーションはといったどのような仕組みで成立しているのでしょうか、コミュニケーションを行っている当人たちは何を知覚し、認識し、行動しているのでしょうか。
この問いについて考えるために、私たちはコミュニケーション研究会という会を立ち上げました。そして一つの学問分野からアプローチするのではなく、社会学、哲学、言語学、精神医学、認知科学など多角的な視点から考えることにしました。
(Vol.1 No1.はしがきより)

contents

captor1

渡壁 典弘

発達障害者の社会適応と社会的役割の考察

—Wolfensberger による Social Role Valorization 理念の今日的論考—

captor2

長田 攻一

行為と自己表現

—E. Goffman と N. Luhmann の議論を参考に—

captor3

米田 衆介

字義通り性から離脱するということ

—わたしからわたしたちへ—

captor4

空地 裕介

社会が見えないとは？

—社会認識モデルの提案—

captor5

志村 信彦

正常な造語と異常な造語の違い

—明治期の和製漢語と統合失調症の言語新作を比較して—



残部僅少

Social Blindness(vol.1 NO.1)

頒布予価:1000円 / A5版120頁

1. 役割を遂行するとはいかなる営みなのか: 役割論からみるアスペルガー者の役割逸脱事例(青山陽子) / 2. 自然化された了解概念について(米田衆介) / 3. アスペルガー者の社会性とコミュニケーションの問題: 社会的組織における「信頼」と「規範」の考察(渡壁典弘) / 4. ゲームから見る文化現象の生成モデル(空地裕介) / 5. 「いまここで起きていることは何か」: 「空間実践」とメタコミュニケーション(長田攻一)



残部僅少

SOCIAL BLINDNESS

Vol.1 suppl.1

頒布予価:100円 / A5版36頁

1. 「ノーマルな外見」と感情(長田攻一) / 2. ボードゲームにおけるコミュニケーションによるジレンマ(吉津亮介) / 3. 将来概念にもとづく状況と結びついた役割について(空地裕介) / 4. アスペルガー者の社会性と役割理論の考察(渡壁典弘) / 5. 社会的不確実性の精神病理へ向けて(米田衆介) / 6. 役割距離の典型性と規範性(青山陽子)

MAIL: akihabara.asylum@gmail.com

WEB: <http://akihabaraasylum.wordpress.com>

